

企業訪問 資源循環レポート

加山興業（株）

KAYAMAファームの 勇敢なミツバチは 地球温暖化対策に貢献

加山興業（株）



豊川リサイクルプラント

加山興業 株式会社

■代表者／加山 順一郎

■所在地／豊川市南千両二丁目1番地

TEL 0533-89-0375 FAX 0533-84-3739



会長 加山昌弘氏（左）と河野常務（右）

加山興業（株）は「とっても頑固なゴミ屋さん!!」として昭和26年創業以来変わらぬスタンスで、廃棄物処理業者として廃棄物の適正処理、リサイクルに取り組まれています。

代表取締役 加山順一郎氏は、現在日本では年間約4億トンという産業廃棄物が排出されている現状について、世界の限りある資源の循環について深く考え、持続可能な社会を創り続けなければならないと提案しています。そのためにも我々は何をするべきかというテーマに応えるべく、「環境ソリューション」事業を発足。廃棄物処理業にとらわれず、廃棄物の発生を抑制する長寿命のLED照明の提案、100%自然エネルギーの電力サービスなど、近年では環境保全を目的とした様々な事業を展開しています。

特に農作物の栽培（KAYAMAファーム）や環境指標生物であるミツバチの養蜂活動は、当事業が環境へ悪影響を与えていないことを証明し、周辺地域の方々から信頼を得られるよう努めています。

今回は数年にわたり養蜂に携わるミツバチの育ての親、常務 河野嗣寿氏にお話しを伺いました。

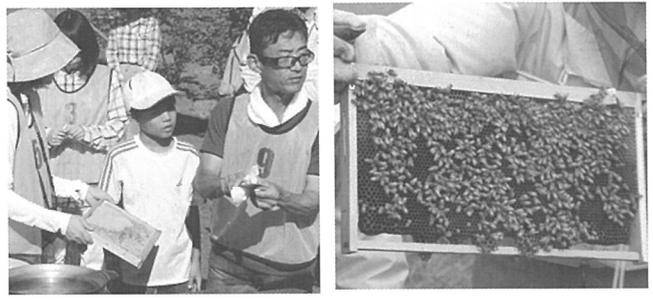




■ KAYAMAファーム

KAYAMAファームは産業廃棄物処理施設に隣接していますが、処理施設場の存在を全く感じさせないほど緑が溢れるファームです。ファームにはカラミンサ、ラベンダーセージ、フレンチラベンダー、コモンタイム、クリーピングタイム、ロンギカウリスタイム、ローズマリーなど多くのハーブが植えられています。周りの樹木は紅色の花を咲かせている木々、栗の木からは大きな栗が落ちており、四季折々の景色を演出しています。KAYAMAファームのハチミツは、このように多くの無農薬の花の蜜から作られています。

また、養蜂として飼育されているミツバチのほとんどが「西洋ミツバチ」であり、蜜を集める能力が優れています。このハチの特性として、飼育管理下でなければ生息できず野生化することはないようです。天敵の「オオスズメバチ」は9月頃に西洋ミツバチの巣を襲い、幼虫やはちみつを奪いにきます。応戦する西洋ミツバチは1匹で戦いに挑む勇敢な戦士ですが、体躯の差からオオスズメバチに負けてしまい、巣を全滅させられてしまうようです。オオスズメバチの襲撃対策として河野氏は、巣箱の出入口前に粘着シートを設置し外敵を捕獲する対策を講じています。



■ ミツバチプロジェクト

作物の花粉を交配してくれるミツバチが大切な存在であるということから、平成26年5月よりミツバチプロジェクトの養蜂活動に参加しました。同年10月にカーボン・オフセット認証を取得し、はちみつ生産にともなうCO₂排出量を集計し、中部産CO₂クレジットを活用してカーボンオフセットをしています。養蜂活動を始めて毎年7月にハーベスト（はちみつ収穫祭）を開催し、地元のお子さんや皆様方をお招きして、ミツバチの生態について知っていただき、はちみつの採集体験、これからの環境問題について意識啓発を行う行事を催しています。

日頃は加山興業（株）のホームページのCSRから、ミツバチプロジェクトを含む環境ソリューションの活動を発信しておりますが、ハーベストで集い、収穫を祝う多くの方々とミツバチの恩恵にあずかることは、より地域の方々との結びつきが強固となり、持続可能な社会の構築への協働意識が高まる役割を担っています。

河野常務は日々ミツバチの巣箱の手入れや草木の手入れに余念がありません。そのおかげもあってファームのミツバチは数も増えて大所帯になっています。今後養蜂を通じて環境ソリューションをお考えの方は、ぜひ河野常務にお尋ねください。



加山社長、手前の瓶は「国産純粋蜂蜜 KAYAMAハニーナッツ」（左）、「国産純粋蜂蜜 KAYAMA蜂蜜」（右）Web販売をしています。